

故前會長 名譽會員 工學博士 齋藤大吉君 を悼む

豫て心臓に微恙を感じてゐられた外さしたる御健康上の障害も持つてゐられなかつた君が今年の3月25日に京都の御自宅で溘焉として逝去された。君は明治31年7月東京帝國大學工科大学探礦冶金科を卒業後直ちに京都帝國大學理工科大学助教授に任ぜられ爾來同大學に教鞭を採られること35星霜昭和7年12月停年で引退せらるゝまで一意斯道の研鑽を重ね又歐米諸國に留學して熱心鐵冶金を擔任して専ら後進學徒の薰陶に努められた。今日君が門下より多數俊髦英才の簇出を見たことは實に偶然でない次第である。

君は又大學引退後日本學術振興會第10特別委員會、第19製鋼委員會の委員として將又阪神地方有數の製鋼工場に囑託として具に學業兩界の指導に従事せられ78歳の高齡を以て尙ほ髮鑠として斯業に盡瘁せられたことは善く世人の敬慕措かざるところである。本會に在りては大正4年2月創立以來實に24年の久しきに亘り連續評議員として會務の樞機に參し、更に引續き昭和13年4月より同15年3月迄會長として親しくその職を執掌せられた。殊にその會長在任中は毎月の理事會には一回も缺くることなくわざわざ京都より出張せられ熱心に萬般の決裁を見たることは今尙當時の役員一同の感激して止まざるところである。本會は先きに大正14年10月創立第10周年記念大會に際し製鐵功勞賞牌を贈呈し、又昭和8年2月名譽會員に推戴し聊か君が功勞に酬ゆるところがあつたが今や亡し、而して終戦後の我國狀窮迫のとき鐵鋼界の前途に今尙暗雲去らざるのとき我邦斯界の權威を失ひしことは何としても痛惜措く能はざるところである。